

○岡部和代* 杉本次代 山名信子**

(* 京都女子大短大, ** 成安造形短大)

目的 スカートの揺動性は、その構造にかかわり動作適応と深い関連をもっている。また形態の異なるスカートのイメージや評価は、静的な形と動的な揺れ動く様子から総合的に判断されるものと思われる。そこで本研究では形態の異なるスカートの揺動軌跡を、運動画像解析システムを用いてとらえ分析するとともに、動的な画像を媒体として得た評価から、スカートのイメージ要因を明らかにすることを目的とした。

方法 平織のトロピカル地で作成したタイト、ギャザー、フレア、プリーツのスカートを用いた。丈は45cm、65cmの2種類である。実験室を暗室にし、反射板をスカートの前後側面の任意の位置に付け、ハロゲンランプを両サイドから照射して、軌跡を捉えた。また揺動の大きい裾の断面には、豆球を付けて光らせた。被験者がピドスコープの上に立ち足踏みを行う間の軌跡をCCDカメラで取り込んで解析した。またイメージはスカートを着衣し足踏みと歩行をするビデオを見ながら女子学生136名が評価を行った。

結果 形態の異なるスカートの揺動軌跡の特徴は裾に現れる。ギャザーやフレアの裾はある一定の範囲で不規則な大小の楕円を描きながら揺動する。後ろは左右前後に僅かに、脇は人体に近づきながら前方に、前面は蹴り出される方向にと、位置によって固有の特徴を示す。プリーツは折り畳まれた襷が開くため、裾周り寸法の増加分がそのまま揺動軌跡の量とはならない。タイトは後面が上斜め方向にひかれる動きに特徴があり、その傾向はロング丈に顕著である。スカートのイメージはフィット感と揺動の因子、動きと美しさの因子、活動感因子に要約でき、スカートの形態と丈により評価が異なる。